

第19回「秋田県内企業の景気動向調査」結果

(平成28年2月調査)

～足元は慎重姿勢が強まり、先行きも悪化の見通し～

【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」で見ると、▲13.4(前回調査比5.6ポイント下落)と2期連続の悪化となった。「各種DI値(前年同期比)」をみると、「人員人手」を除く3項目が小幅ながら改善された。
- **業種別**に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、製造業が▲4.0(前回調査比7.8ポイント上昇)と改善した一方で、建設業が▲12.2(同3.4ポイント下落)、卸・小売業が▲23.2(同18.1ポイント下落)、サービス業が▲13.1(同7.3ポイント下落)と悪化した。
- **地域別**に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、県北が▲8.2(前回調査比1.0ポイント上昇)と改善した一方、中央は▲13.8(同2.5ポイント下落)、県南は▲16.0(同16.0ポイント下落)と悪化した。県南では再び「悪い」超に転じている。
- **先行き見通し**は、「自社の業況DI値」が▲28.3(今回調査比14.9ポイント下落)と引き続き悪化が見込まれている。

【 特別調査 】

- **雇用調整**について尋ねたところ、「残業規制」が27.1%(昨年調査比▲0.2ポイント)、「ワークシェアリング」が10.6%(同+0.4ポイント)、「従業員の削減」が6.7%(同▲2.1ポイント)と、「ワークシェアリング」を除いて小幅ながら実施企業の割合が減少している。
- **新卒者の採用状況**について尋ねたところ、採用すると答えた企業の割合は、全業種では32.6%(昨年比▲4.8ポイント)と5期振りに減少した。業種別では、製造業と卸・小売業では上昇した一方で、建設業とサービス業では減少した。

平成28年3月

株式会社ファイデア総合研究所

目次

I. 県内企業の業況.....	1
1. 概況.....	1
2. 業種別の動向.....	2
(1)業種別の概況.....	2
(2)業種別DI値の動向.....	3
① 建設業.....	3
② 製造業.....	4
③ 卸・小売業.....	5
④ サービス業.....	6
3. 地域別の動向.....	7
(1)地域別の概況.....	7
(2)地域別DI値の動向.....	8
① 県北.....	8
② 中央.....	9
③ 県南.....	10
II. 景気の天気予報図.....	11
III. 特別調査.....	12
1. 雇用調整について.....	12
2. 新卒者の採用状況について.....	13
<参考資料Ⅰ：業種別・地域別回答率>.....	14
<参考資料Ⅱ：調査の概要>.....	14

I. 県内企業の業況

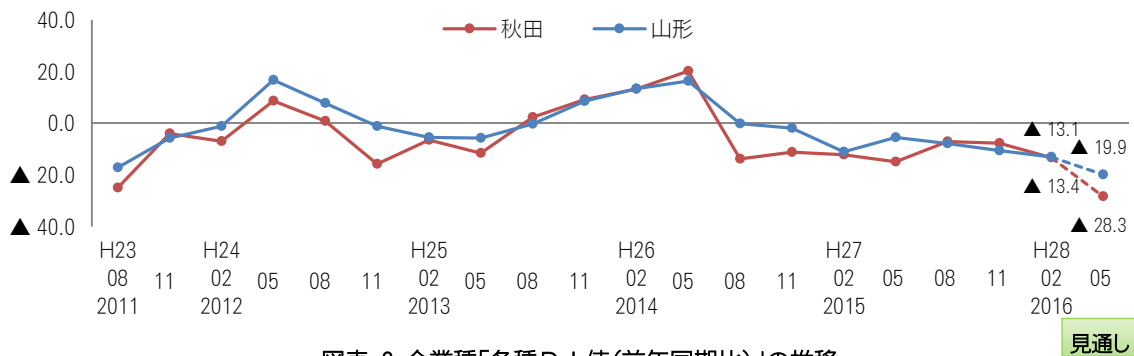
1. 概況

～足元は慎重姿勢が強まり、先行きも悪化の見通し～

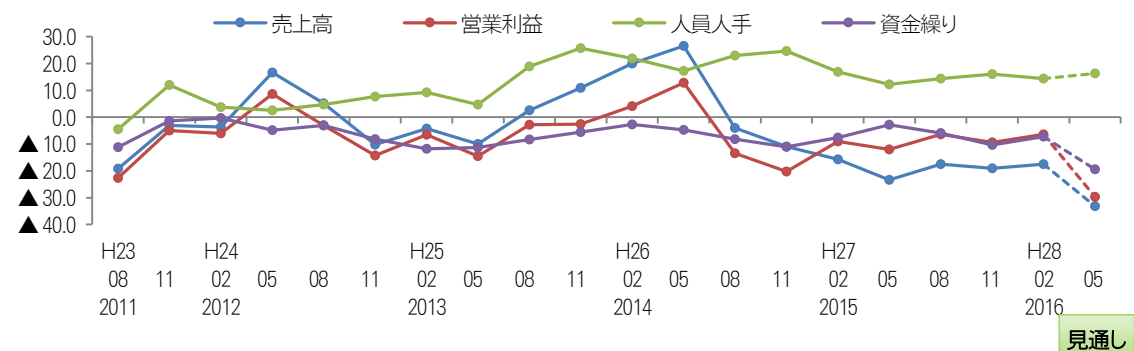
県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況D I 値(前年同期比)」でみると、▲13.4(前回調査比 5.6ポイント下落)と2期連続の悪化となった。「各種D I 値(前年同期比)」をみると、「人員人手」を除く3項目が小幅ながら改善された一方で、「人員人手」では人手不足感が幾分緩和し、小幅ながら悪化となった。この要因として、中国経済への懸念や原油安等に伴う年初からの急激な円高・株安の流れを受け、実際の業況以上に経営者の景況感の悪化が先行していることが考えられる。

先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が▲28.3(今回調査比 14.9ポイント下落)と大幅な悪化が見込まれており、総じて業況の後退懸念がうかがえる。

図表 1 全業種「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 2 全業種「各種D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

全業種 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)			売上高	営業利益	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測					
H 27.02 (n=433)	▲12.2	▲1.0	▲20.9	▲15.7	▲9.0	16.9	▲7.6
H 27.05 (n=435)	▲15.0	▲2.8	▲20.8	▲23.4	▲12.0	12.2	▲2.8
H 27.08 (n=423)	▲7.1	7.9	▲12.8	▲17.5	▲6.4	14.4	▲5.9
H 27.11 (n=424)	▲7.8	▲0.7	▲11.1	▲19.1	▲9.4	16.0	▲10.4
H 28.02 (n=417)	▲13.4	(▲5.6)	▲17.5	▲17.5	▲6.4	14.4	▲7.2
前回調査比	-	-	-	(1.6)	(3.0)	(▲1.6)	(3.2)
先行き見通し	▲28.3	-	-	▲33.1	▲29.7	16.3	▲19.4
今回調査比	(▲14.9)	-	-	(▲15.6)	(▲23.3)	(1.9)	(▲12.2)

※ 「売上高」D I 値は、建設業の「完成工事高」を含んだ値。

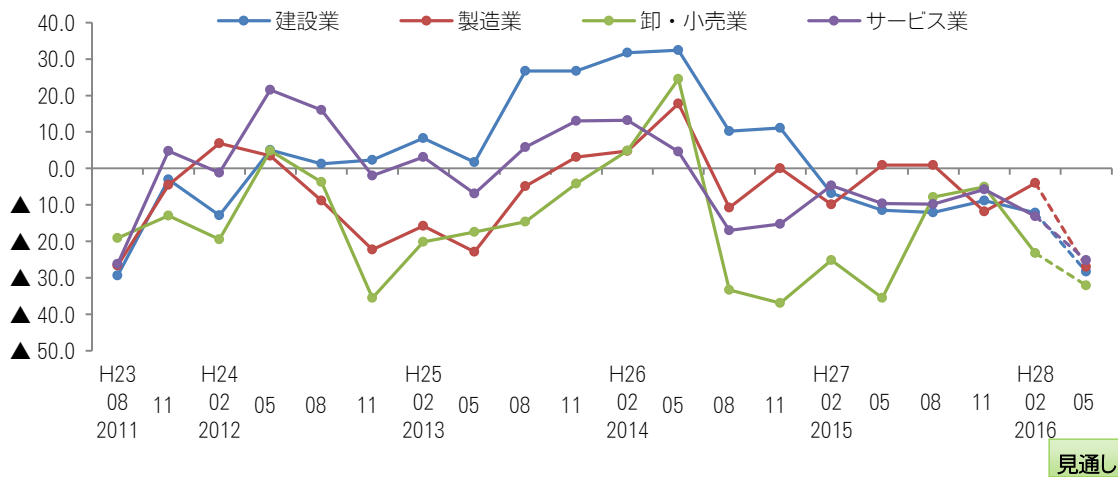
2. 業種別の動向

(1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、製造業が▲4.0(前回調査比 7.8 ポイント上昇)と改善した一方で、建設業が▲12.2(同 3.4 ポイント下落)、卸・小売業が▲23.2(同 18.1 ポイント下落)、サービス業が▲13.1(同 7.3 ポイント下落)といずれも悪化となった。

業況の先行き見通しは、全業種で悪化が見込まれている。この背景として、中国経済の減速などの影響で全体的に業績の先行き不透明感が強まっていることが考えられる。

図表 3 業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

業種別 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
H 27.02 (n=433)	▲ 12.2	▲ 6.8	▲ 9.9	▲ 25.2	▲ 4.7
H 27.05 (n=435)	▲ 15.0	▲ 11.5	0.9	▲ 35.5	▲ 9.6
H 27.08 (n=423)	▲ 7.1	▲ 12.1	0.9	▲ 7.9	▲ 9.8
H 27.11 (n=424)	▲ 7.8	▲ 8.8	▲ 11.8	▲ 5.1	▲ 5.8
H 28.02 (n=417)	▲ 13.4	▲ 12.2	▲ 4.0	▲ 23.2	▲ 13.1
前回調査比	(▲ 5.6)	(▲ 3.4)	(7.8)	(▲ 18.1)	(▲ 7.3)
先行き見通し	▲ 28.3	▲ 28.3	▲ 27.0	▲ 32.1	▲ 25.2
今回調査比	(▲ 14.9)	(▲ 16.1)	(▲ 23.0)	(▲ 8.9)	(▲ 12.1)

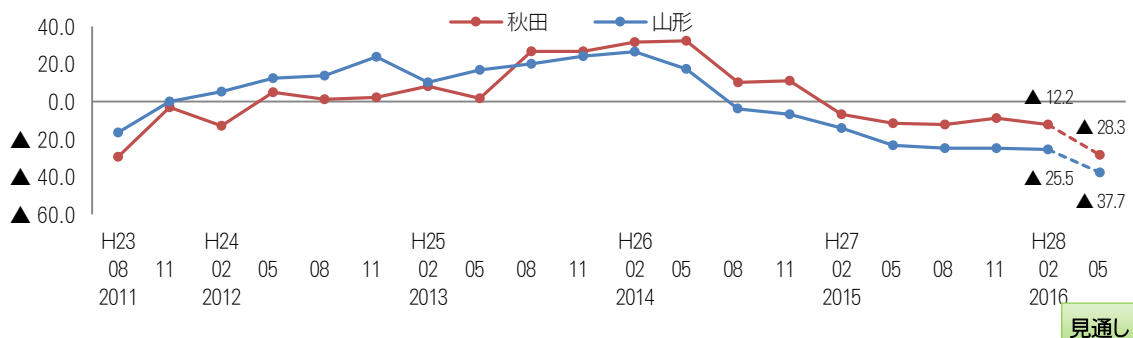
(2)業種別D I 値の動向

① 建設業

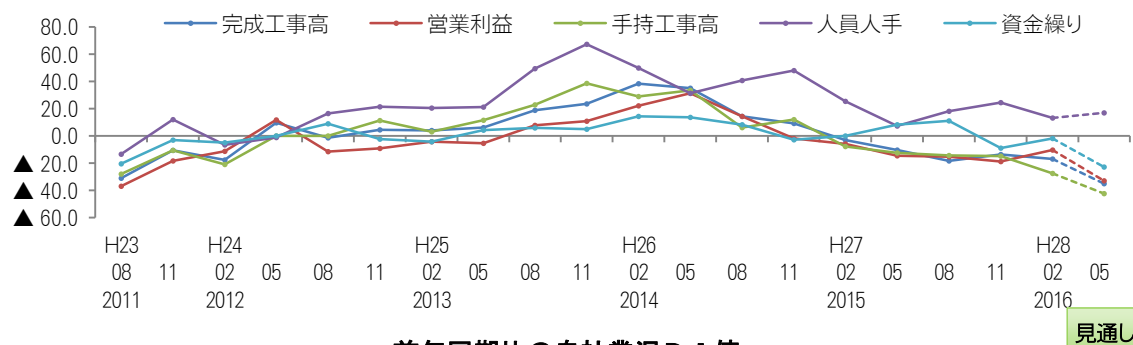
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は▲12.2(前回調査比 3.4 ポイント下落)と小幅ながら悪化となった。「各種D I 値(前年同期比)」をみると、「営業利益」「資金繰り」が改善し、「完成工事高」「手持工事高」「人員人手」は悪化となっている。公共工事の減少等を背景として、業況は停滞傾向にあり、各社のコメントからは、小口工事を着実にこなし、利益確保に努めている企業が多くみられた。

先行き見通しは、「自社の業況D I 値(前年同期比)」が▲28.3(今回調査比 16.1 ポイント下落)と大幅な悪化が見込まれている。

図表 4 建設業「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 5 建設業「各種D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

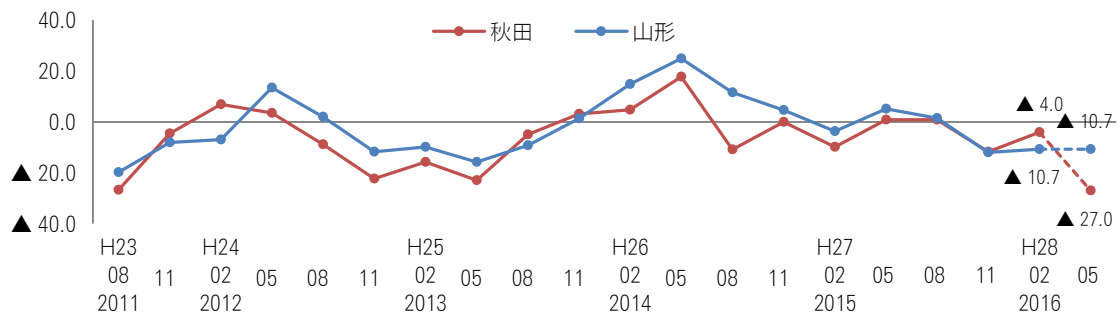
建設業 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測						
H27.02 (n=102)	▲ 6.8	▲ 17.9	▲ 12.0	▲ 2.9	▲ 5.9	▲ 7.8	25.5	0.0
H27.05 (n=96)	▲ 11.5	▲ 4.7	▲ 19.6	▲ 10.4	▲ 14.6	▲ 12.5	7.3	8.4
H27.08 (n=99)	▲ 12.1	▲ 0.6	▲ 23.0	▲ 18.2	▲ 15.2	▲ 14.2	18.2	11.1
H27.11 (n=102)	▲ 8.8	3.3	▲ 7.1	▲ 13.7	▲ 18.7	▲ 14.7	24.5	▲ 8.8
H28.02 (n=106)	▲ 12.2	(▲ 3.4)	▲ 26.5	▲ 17.0	▲ 10.4	▲ 27.4	13.2	▲ 1.9
前回調査比	-	-	-	(▲ 3.3)	(8.3)	(▲ 12.7)	(▲ 11.3)	(6.9)
先行き見通し	▲ 28.3	-	-	▲ 34.9	▲ 33.0	▲ 42.4	17.0	▲ 22.7
今回調査比	(▲ 16.1)	-	-	(▲ 17.9)	(▲ 22.6)	(▲ 15.0)	(3.8)	(▲ 20.8)

② 製造業

「自社の業況DI値(前年同期比)」は▲4.0(前回調査比 7.8 ポイント上昇)と改善となった。各種DI値(前年同期比)でみると、「在庫状況」「資金繰り」を除く4項目が改善となった。中国経済の減速等の影響がうかがえるものの、一部企業に業況の改善が見られ、総じてみれば幾分上向きの動きがうかがえた。

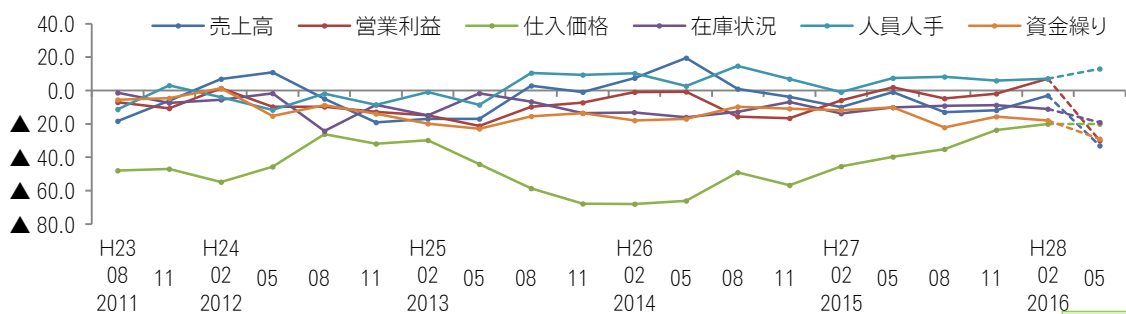
業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲27.0(今回調査比 23.0 ポイント下落)と大幅な悪化が見込まれている。

図表 6 製造業「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



見通し

図表 7 製造業「各種DI値(前年同期比)」の推移



見通し

前年同期比の自社業況DI値

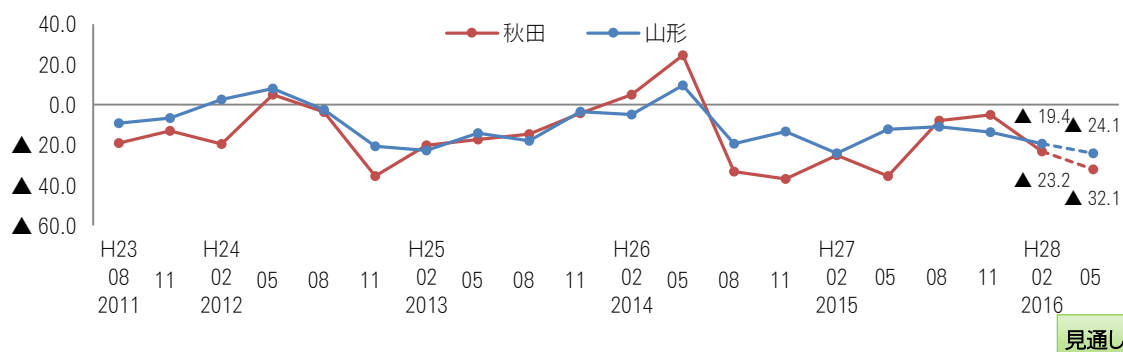
製造業 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H27.02(n=101)	▲9.9	▲9.9	▲10.8	▲9.9	▲6.0	▲45.5	▲13.8	▲0.9	▲11.8
H27.05(n=108)	0.9	10.8	▲19.8	▲0.9	1.9	▲39.8	▲10.2	7.4	▲10.1
H27.08(n=108)	0.9	▲0.0	▲1.8	▲12.9	▲4.7	▲35.1	▲9.2	8.3	▲22.2
H27.11(n=102)	▲11.8	▲12.7	▲12.0	▲11.8	▲2.0	▲23.6	▲8.8	5.9	▲15.7
H28.02(n=100)	▲4.0	(7.8)	▲7.9	▲3.0	7.0	▲20.0	▲11.0	7.0	▲18.0
前回調査比	-	-	-	(8.8)	(9.0)	(3.6)	(▲2.2)	(1.1)	(▲2.3)
先行き見通し	▲27.0	-	-	▲33.0	▲30.0	▲20.0	▲19.0	13.0	▲29.0
今回調査比	(▲23.0)	-	-	(▲30.0)	(▲37.0)	(0.0)	(▲8.0)	(6.0)	(▲11.0)

③ 卸・小売業

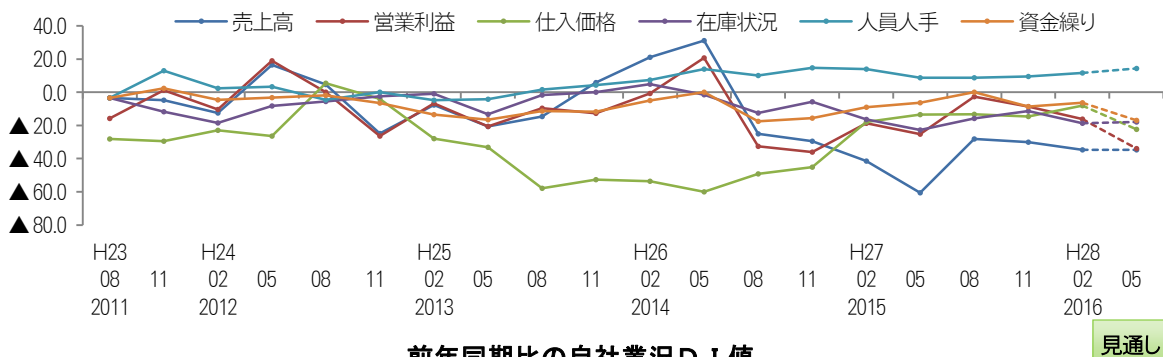
「自社の業況DI値(前年同期比)」は▲23.2(前回調査比 18.1 ポイント下落)と大幅な悪化となった。「各種DI値(前年同期比)」でみると、「仕入価格」「人員・人手」「資金繰り」が僅かながら改善しているものの、「売上高」など3項目では悪化となった。各社の業況をみると、食料品や生活必需品関連など一部では需要の回復がみられるものの、総じてみれば、消費の停滞が続いている状況がうかがえた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲32.1(今回調査比 8.9 下落)と大幅な悪化が見込まれている。

図表 8 卸・小売業「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表 9 卸・小売業「各種DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

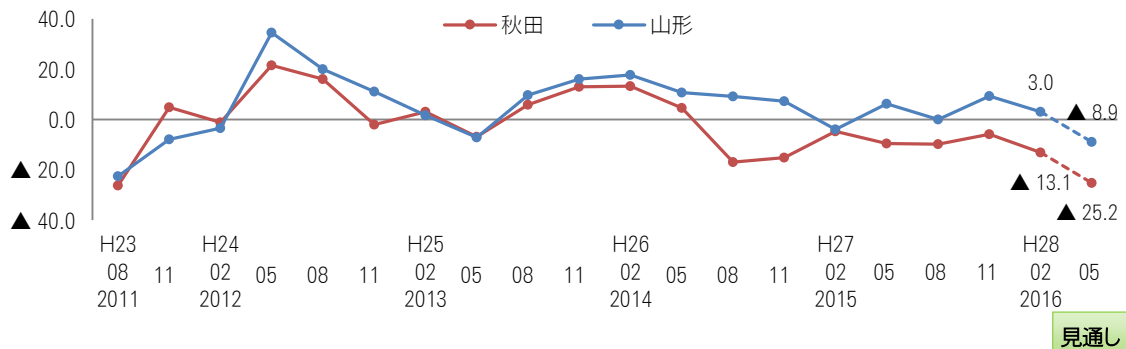
卸・小売業 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H27.02 (n=123)	▲25.2	11.7	▲40.2	▲41.5	▲18.7	▲17.9	▲16.3	13.9	▲9.0
H27.05 (n=127)	▲35.5	▲10.3	▲30.1	▲60.6	▲25.2	▲13.4	▲22.8	8.7	▲6.3
H27.08 (n=114)	▲7.9	27.6	▲18.9	▲28.1	▲2.6	▲13.2	▲15.8	8.8	0.0
H27.11 (n=116)	▲5.1	2.8	▲15.8	▲30.1	▲8.6	▲14.7	▲11.3	9.5	▲8.6
H28.02 (n=112)	▲23.2	(▲18.1)	▲23.3	▲34.8	▲16.1	▲8.0	▲18.7	11.6	▲6.3
前回調査比	-	-	-	(▲4.7)	(▲7.5)	(6.7)	(▲7.4)	(2.1)	(2.3)
先行き見通し	▲32.1	-	-	▲34.8	▲33.9	▲22.3	▲17.9	14.3	▲17.0
今回調査比	(▲8.9)	-	-	(0.0)	(▲17.8)	(▲14.3)	(0.8)	(2.7)	(▲10.7)

④ サービス業

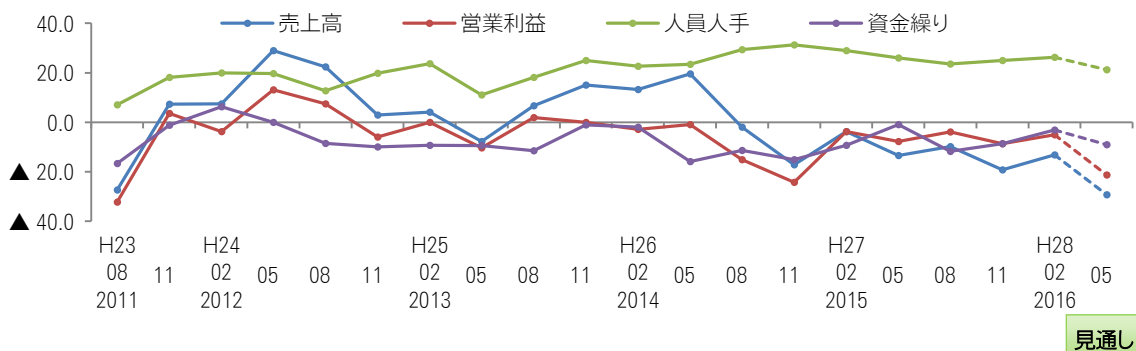
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は▲13.1(前回調査比 7.3 ポイント下落)と悪化となった。「各種D I 値(前年同期比)」では、全項目で改善しているものの。総じてみれば、運送業では燃料価格の下落傾向などから業況回復がうかがえた一方、観光などレジャー関連では依然として需要低迷による停滞感がうかがえた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値(前年同期比)」が▲25.2(今回調査比 12.1 ポイント下落)と悪化が見込まれている。

図表 10 サービス業「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 11 サービス業「各種D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

サービス業 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)			売上高	営業利益	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測					
H27.02(n=107)	▲4.7	10.5	▲17.2	▲3.7	▲3.8	29.0	▲9.3
H27.05(n=104)	▲9.6	▲4.9	▲12.2	▲13.4	▲7.7	26.0	▲0.9
H27.08(n=102)	▲9.8	▲0.2	▲7.7	▲9.8	▲3.9	23.5	▲11.7
H27.11(n=104)	▲5.8	4.0	▲8.8	▲19.2	▲8.7	25.0	▲8.6
H28.02(n=99)	▲13.1	(▲7.3)	▲11.5	▲13.1	▲5.0	26.3	▲3.1
前回調査比	-	-	-	(6.1)	(3.7)	(1.3)	(5.5)
先行き見通し	▲25.2	-	-	▲29.3	▲21.3	21.2	▲9.1
今回調査比	(▲12.1)	-	-	(▲16.2)	(▲16.3)	(▲5.1)	(▲6.0)

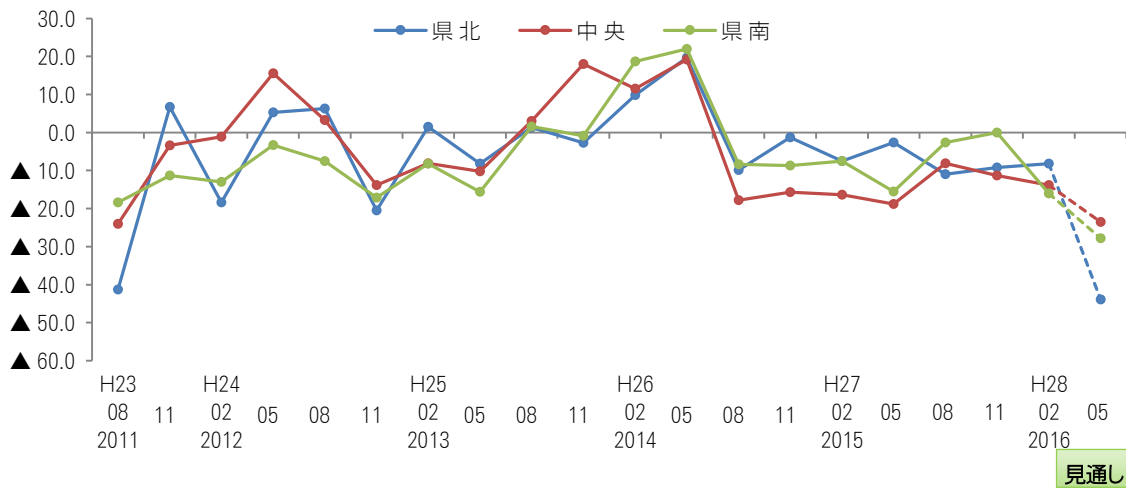
3. 地域別の動向

(1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、県北が▲8.2(前回調査比 1.0ポイント上昇)と改善した一方、中央は▲13.8(同2.5ポイント下落)、県南は▲16.0(同16.0ポイント下落)と悪化した。県南では再び「悪い」超に転じている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、すべての地域で悪化が見込まれている。

図表 12 地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

地域別 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			
	全地域	県北	中央	県南
H 27.02 (n=433)	▲ 12.2	▲ 7.5	▲ 16.4	▲ 7.5
H 27.05 (n=435)	▲ 15.0	▲ 2.6	▲ 18.8	▲ 15.5
H 27.08 (n=423)	▲ 7.1	▲ 11.0	▲ 8.1	▲ 2.6
H 27.11 (n=424)	▲ 7.8	▲ 9.2	▲ 11.3	0.0
H 28.02 (n=417)	▲ 13.4	▲ 8.2	▲ 13.8	▲ 16.0
前回調査比	(▲ 5.6)	(1.0)	(▲ 2.5)	(▲ 16.0)
先行き見通し	▲ 28.3	▲ 43.9	▲ 23.5	▲ 27.8
今回調査比	(▲ 14.9)	(▲ 35.7)	(▲ 9.7)	(▲ 11.8)

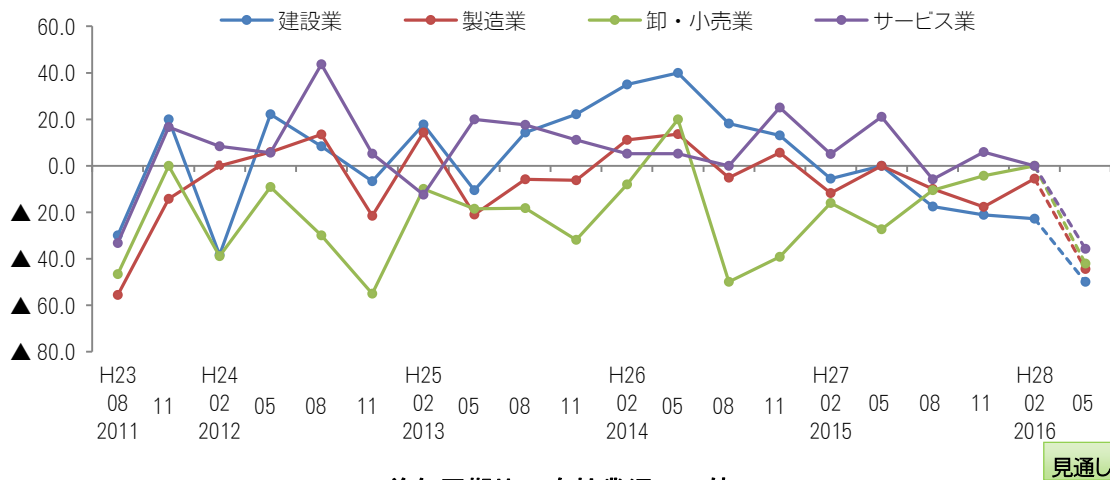
(2) 地域別DI値の動向

① 県北

「自社の業況DI値(前年同期比)」は▲8.2(前回調査比 1.0ポイント上昇)と2期連続で改善した。業種別では、製造業と卸・小売業が改善している一方で、建設業とサービス業が悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲43.9(今回調査比 35.7ポイント下落)と大幅な悪化が見込まれている。業種別でも、全業種で大幅な悪化の見通しとなっている。

図表 13 県北業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

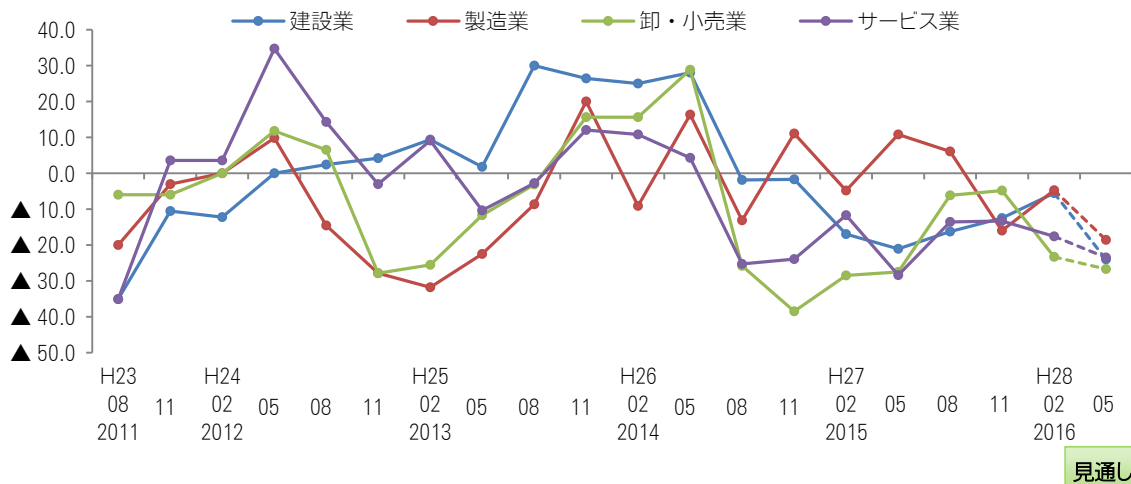
県北 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)				
	建設	製造	卸・小売	サービス	
H 27.02 (n=80)	▲7.5	▲5.6	▲11.8	▲16.0	5.0
H 27.05 (n=78)	▲2.6	0.0	0.0	▲27.3	21.0
H 27.08 (n=73)	▲11.0	▲17.6	▲10.0	▲10.5	▲5.9
H 27.11 (n=76)	▲9.2	▲21.1	▲17.7	▲4.3	5.9
H 28.02 (n=73)	▲8.2	▲22.8	▲5.6	0.0	0.0
前回調査比	(1.0)	(▲1.7)	(12.1)	(4.3)	(▲5.9)
先行き見通し	▲43.9	▲50.0	▲44.4	▲42.1	▲35.7
今回調査比	(▲35.7)	(▲27.2)	(▲38.8)	(▲42.1)	(▲35.7)

② 中央

「自社の業況DI値(前年同期比)」は▲13.8(前回調査比 2.5 ポイント下落)と2期連続で悪化した。業種別では、建設業と製造業が改善した一方、卸・小売業とサービス業が悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲23.5(今回調査比 9.7 ポイント下落)と悪化が見込まれている。業種別でも、全業種で悪化の見通しとなっている。

図表 14 中央業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

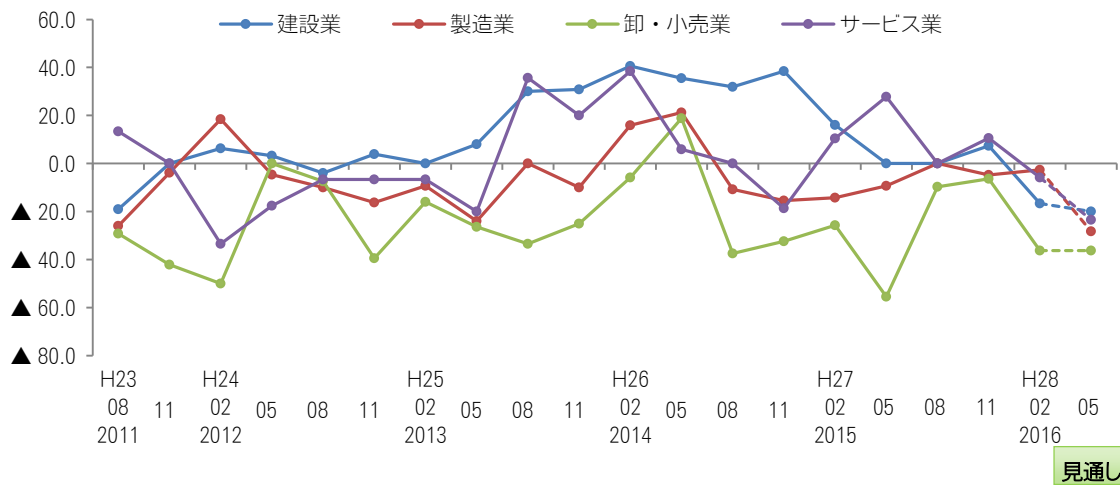
中央 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)				
	建設	製造	卸・小売	サービス	
H 27.02 (n=232)	▲ 16.4	▲ 17.0	▲ 4.8	▲ 28.5	▲ 11.7
H 27.05 (n=234)	▲ 18.8	▲ 21.1	10.8	▲ 27.5	▲ 28.4
H 27.08 (n=234)	▲ 8.1	▲ 16.3	6.1	▲ 6.2	▲ 13.6
H 27.11 (n=230)	▲ 11.3	▲ 12.5	▲ 16.0	▲ 4.8	▲ 13.3
H 28.02 (n=225)	▲ 13.8	▲ 5.5	▲ 4.7	▲ 23.3	▲ 17.6
前回調査比	(▲ 2.5)	(7.0)	(11.3)	(▲ 18.5)	(▲ 4.3)
先行き見通し	▲ 23.5	▲ 24.0	▲ 18.6	▲ 26.7	▲ 23.5
今回調査比	(▲ 9.7)	(▲ 18.5)	(▲ 13.9)	(▲ 3.4)	(▲ 5.9)

③ 県南

「自社の業況DI値(前年同期比)」は▲16.0(前回調査比 16.0 ポイント下落)と悪化し、再び「悪い」超に転じた。業種別にみると、製造業が▲2.6(同 2.2 ポイント上昇)と僅かながら改善した一方、他の3業種は悪化しており、中でも卸・小売業は▲36.3(同 29.9 ポイント下落)と大幅な悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲27.8(今回調査比 11.8 ポイント下落)と悪化が見込まれている。業種別では製造業とサービス業で大幅な悪化が見込まれている。

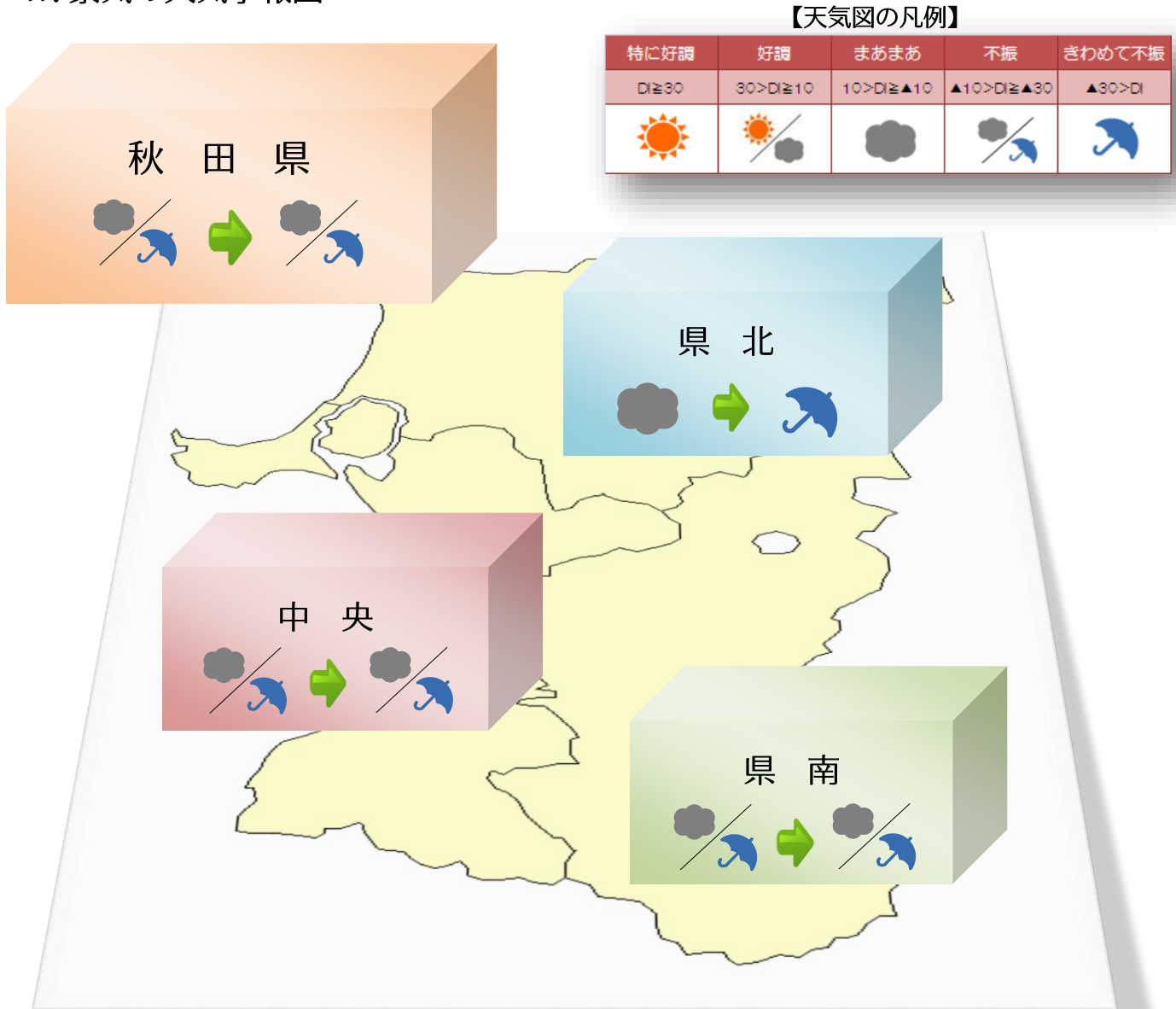
図表 15 県南業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

県南 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)				
	建設	製造	卸・小売	サービス	
H 27.02 (n=121)	▲ 7.5	16.0	▲ 14.3	▲ 25.7	10.5
H 27.5 (n=123)	▲ 15.5	0.0	▲ 9.3	▲ 55.5	27.8
H 27.8 (n=116)	▲ 2.6	0.0	0.0	▲ 9.7	0.0
H 27.11 (n=118)	0.0	7.4	▲ 4.8	▲ 6.4	10.6
H 28.02 (n=119)	▲ 16.0	▲ 16.7	▲ 2.6	▲ 36.3	▲ 5.9
前回調査比	(▲ 16.0)	(▲ 24.1)	(2.2)	(▲ 29.9)	(▲ 16.5)
先行き見通し	▲ 27.8	▲ 20.0	▲ 28.2	▲ 36.3	▲ 23.5
今回調査比	(▲ 11.8)	(▲ 3.3)	(▲ 25.6)	(0.0)	(▲ 17.6)

II. 景気の天気予報図



今期の概況

	秋田県	県北	中央	県南
全業種				
建設				
製造				
卸・小売				
サービス				

来期の見通し

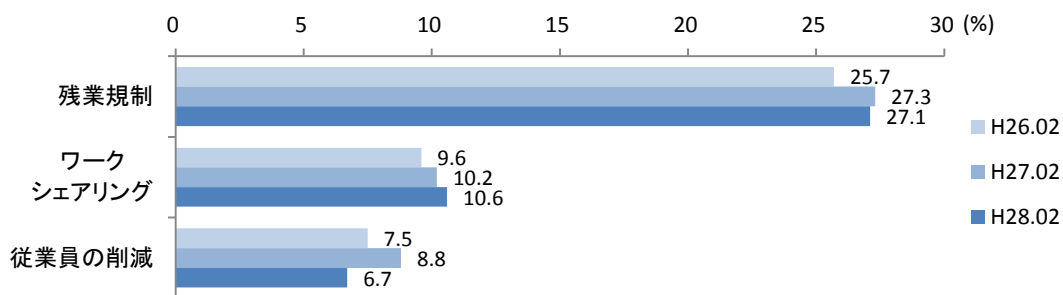
	秋田県	県北	中央	県南
全業種				
建設				
製造				
卸・小売				
サービス				

III. 特別調査

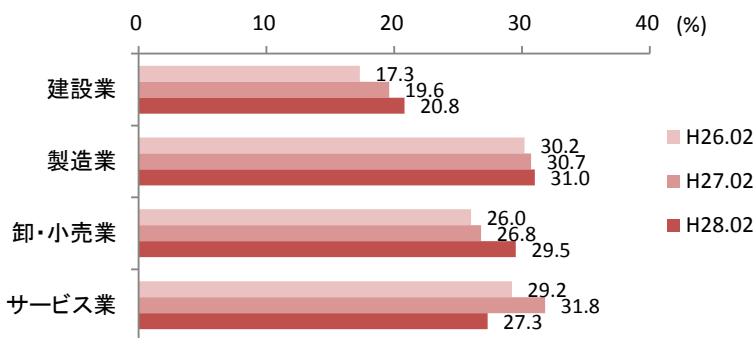
1. 雇用調整について

平成 27 年度に実施した(あるいは実施している)雇用調整について尋ねたところ、「残業規制」が 27.1%(昨年調査比▲0.2 ポイント)、「ワークシェアリング」が 10.6%(同+0.4 ポイント)、「従業員の削減」が 6.7%(同▲2.1 ポイント)と、「ワークシェアリング」を除いて小幅ながら実施企業の割合が減少している。総じて、業種によってバラツキはあるが、景気の持ち直しや、人手不足の状況が続いたことが影響したものと考えられる。

図表 16 雇用調整の実施状況

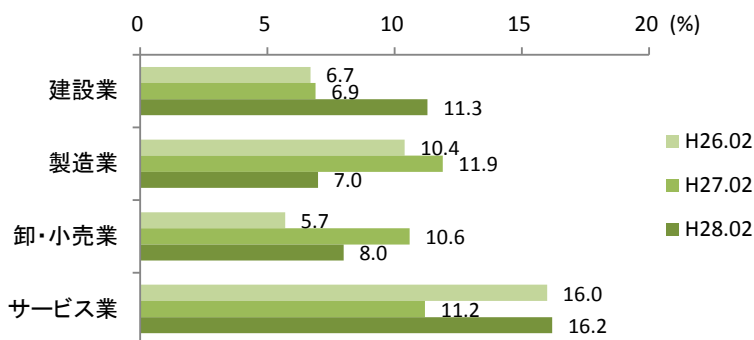


図表 17 業種別「残業規制」の実施状況



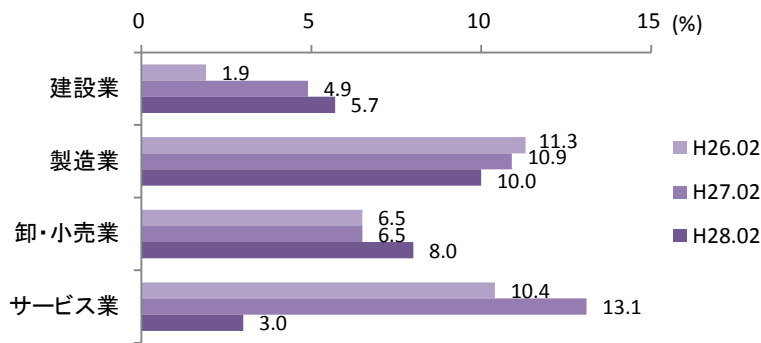
「残業規制」を実施した企業の割合は、昨年調査と比較すると、サービス業を除く業種で小幅ながら上昇となった。この背景として、人件費の削減に取り組む企業がある一方で、サービス業は、残業規制を緩和した企業があったことなどが考えられる。

図表 18 業種別「ワークシェアリング」の実施状況



「ワークシェアリング」を実施した企業の割合は、昨年調査と比較すると、建設業とサービス業は上昇、製造業と卸・小売業は減少となった。特に建設業は昨年比+4.4 ポイントとなり、この背景として業況の停滞傾向により、「ワークシェアリング」への取り組み姿勢を強めたことが考えられる。

図表 19 業種別「従業員の削減」の実施状況

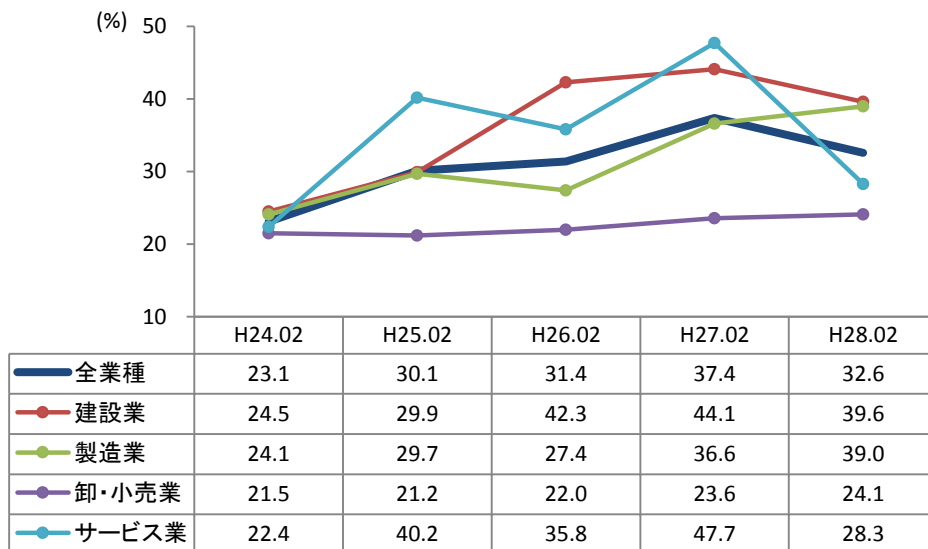


「従業員の削減」を実施した企業の割合は、昨年調査と比較すると、建設業と卸・小売業は上昇、製造業は小幅な減少、サービス業は大幅な減少となった。建設業、卸・小売業は人手不足感が幾分緩和し従業員を削減する動きが見られた一方で、製造業とサービス業は一部企業で業況回復に伴った人手不足の状況がうかがえた。

2. 新卒者の採用状況について

来年度(平成 28 年度)の新卒者の採用状況(採用する)について尋ねたところ、採用すると答えた企業の割合は、全業種では 32.6%(昨年比▲4.8 ポイント)と 5 期振りに減少した。業種別では、製造業と卸・小売業では上昇した一方で、建設業とサービス業では減少し、特にサービス業は▲19.4 ポイントと大幅な減少となった。総じて、新卒者を採用する企業は減少傾向にある。この要因として、業種によりバラツキはあるものの慢性的な雇用人員不足や社員の高齢化が進む企業は、人材確保に向けて、計画的に新卒者を採用する傾向にある一方で、足元の業況不振や先行き不透明な状況もあり、総じてみれば、採用を控える企業が幾分増加したものと考えられる。

図表 20 業種別「新卒者の採用状況」



<参考資料Ⅰ：業種別・地域別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
県北	28	27	26	26	107
中央	82	68	98	96	344
県南	41	63	50	37	191
合計	151	158	174	159	642

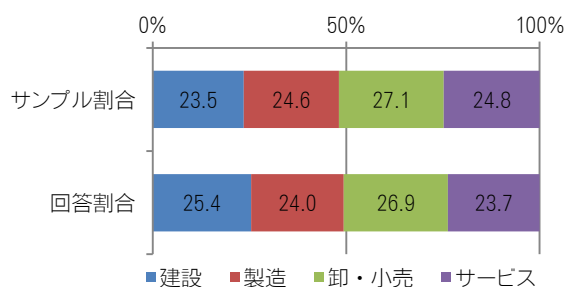
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
県北	22	18	19	14	73
中央	54	43	60	68	225
県南	30	39	33	17	119
合計	106	100	112	99	417

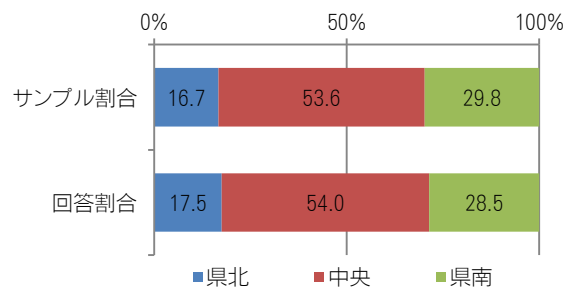
(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
県北	78.6	66.7	73.1	53.8	68.2
中央	65.9	63.2	61.2	70.8	65.4
県南	73.2	61.9	66.0	45.9	62.3
合計	70.2	63.3	64.4	62.3	65.0

(業種別：%)



(地域別：%)



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した。

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査(一部FAXを利用)。

● 調査期間

平成28年2月1日(月)～12日(金)

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
県北	大館市、能代市、北秋田市、鹿角市、三種町、八峰町、小坂町、藤里町、上小阿仁村
中央	秋田市、由利本荘市、潟上市、男鹿市、にかほ市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村
県南	横手市、大仙市、湯沢市、仙北市、美郷町、羽後町、東成瀬村

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について3肢択一方式を採っている。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている。

項目	選択肢 (択一方式)		
自社の業況 (共通項目)	1. 良い	2. さほど変わらない	3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い	2. さほど変わらない	3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない	2. ちょうどよい	3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった	2. さほど変わらない	3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった	2. さほど変わらない	3. 上がった
製(商)品の仕入価(卸・小売業のみ)	1. 下がった	2. さほど変わらない	3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った

(注)各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ3肢択一方式を採っている。

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれD I値を算出する。D I値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、算出方法は次の通り。

例)自社の業況D I値

$$= (\text{「1. 良い」と回答した企業の割合}) - (\text{「3. 悪い」と回答した企業の割合})$$

たとえば「自社の業況D I値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向(良くなっているか、悪くなっているか)についても分かる。

ちなみに、他のD I値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと)を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する。

<お知らせ>

F S N会員専用ホームページ(<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>)にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちらも是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ(<http://www.f-ric.co.jp/>)「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア総合研究所 研究開発グループ／後藤正彦(秋田本部)／松田美由紀(山形本社)

・山形本社

〒990-0043 山形県山形市本町 1-4-21 荘銀山形ビル 8F
TEL : 023-626-9017 Fax : 023-626-9038 E-mail : kenkyuu@f-ric.co.jp
URL : <http://www.f-ric.co.jp>

・秋田本部

〒010-0001 秋田県秋田市中通 3-1-41 北都銀行本店 3F
TEL : 018-837-1727 Fax : 023-834-5508